

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科  
 資格: 助教  
 氏名: 宮内 育大

研究課題		運動経過に関する本質的諸徴表から見た運動構造の分析(砲丸投を対象として)
報告の概要	研究目的 及び 研究概要	<p>目的: 私たちが行う運動には, その運動経過を表す手段として運動構造が挙げられる. マイネル(1981)はその運動構造について, 局面構造と運動リズムは運動構造の概念の内容をなすと指摘している. ここでいう局面構造とは図形的諸徴表に区分される空間的, 時間的分節の概念の中で示される. 一方, 運動リズムは力動的諸徴表に区分される運動覚や運動共感により知覚されるものである. このほかにも, 運動構造に関連性のある概念として, 運動の先取りなど心理的立場からの諸徴表も挙げられる. 運動構造を分析するにあたり, 上記で示した様々な方向性から検討することが求められると考えられるが, 現状としてバイオメカニクス的手法を用いた局面構造の観点から見た運動構造の分析が大半を占める. そこで, 力動的諸徴表や心理的立場からの諸徴表の観点から運動の構造を分析することを目的とした.</p> <p>方法: 対象とした運動(砲丸投)の経験者に半構造化面接を行い, 運動リズムや運動の先取りの観点から質問を行う. 得られた内容から, 対象とした運動の構造を構築する. 半構造化面接の際には, 本人の運動経過もしくは教本などで示されている運動経過の連続写真などを用いる予定である.</p> <p>具体的な手順として, 得られたデータを統計処理(SPSSソフトウェア)により客観的な数値として示す予定である. その後, 被験者へのフィードバックおよび研究論文としてまとめていく予定である.</p> <p>考察: スポーツ運動学の学問領域に関する書籍および先行研究を参考とし, 文献調査から本研究の考察を行う.</p>
	研究成果	本研究を行う前段階として同じ陸上競技の種目であるやり投の運動構造についてバイオメカニクスの観点から検討し, 運動の構造の力学的に解析する手法および知見について整理できた. 得られた知見と手法を用いて次年度に砲丸投を対象とした研究を行う.
研究業績	・論文および著書  著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	論文: 宮内育大・岡田雅次・小山裕三・本道慎吾「やり投における肘関節内反トルクが高まる要因について」陸上競技研究112号・2018年
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	学内研究発表: 宮内育大, 「やり投肘関節傷害の発生要因に関する力学的考察」、平成29年度学部連携ポスターセッション、平成29年7月22日、日本大学会館2階大講堂
	・その他  *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会, 研究会, 研修会, セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	なし.